

スタッフマニュアル ～2024年 春休みこどもキャンプ～

自然体験こどもキャンプ2024



赤字…重要

赤字+黄色塗り…超重要

水色塗り…今回更新した部分



必ず名前を書いてね!

名前



NPO法人 ふじこども自然学校

2024年3月1日改訂

1. はじめに

- (1) ふじこども自然学校について
- (2) 活動理念
- (3) こどもとの接し方（指導方針）



Fuji City



Hamamatsu City

2. こどもキャンプについて

- (1) 組織図・各スタッフの役割
- (2) スタッフとしての心構え



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City

3. こどもの見守りポイント

- (1) 見守りの基本
- (2) 生活の見守り
- (3) 遊びの見守り
- (4) 食事の見守り
- (5) 夜間の見守り
- (6) 傷病対応・服薬管理
- (7) 衛生管理・安全対策



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City

4. 集合・解散について

5. その他



Hamamatsu City



Hamamatsu City



Hamamatsu City

1. はじめに

(1) ふじこども自然学校について

ふじこども自然学校は、2016年に設立された特定非営利活動法人（NPO 法人）です。

私たちは、自然体験の場が減少してきた現代のこどもたちへ、小さいうちから自然とふれあい、人との関わりを通じて成長していくことのできる環境をつくっていくことを目的としています。

(2) 活動理念

豊かな自然環境の中で、普段関わることの少ない幅広い年代の人たちと、いろいろな体験・考えを共有することで、

”協調性” ”主体性” ”自立心” ”好奇心” ”課題解決力”などを伸ばせる場を提供します。

また、こどもキャンプに携わるスタッフの皆さんにも童心に返って自然を満喫し、静岡の魅力を感じながらさまざまな学びを得られる環境作りを大切にしています。

(3) こどもとの接し方（指導方針）

個々の考え方もあると思うので、必ずしもすべてを遵守しなければならない訳ではありませんが、以下の方針を理解し、大きく外れた言動のないように心がけてください。

① **こども達が楽しめることに重きをおく**（学校のような教育・指導の場ではなく、楽しむことや経験をするを大切にしているため、周囲に迷惑のかからない限りあまり叱ることはせず、のびのびと楽しむことができるようにする）

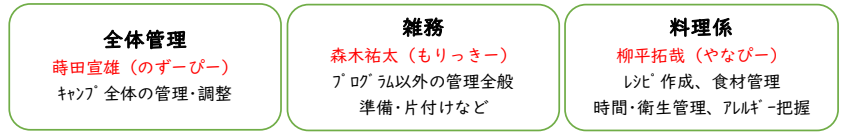
② **こども主体で活動する**（工作や料理はもちろん、掃除・片付けにおいてもスタッフが手を出し過ぎず、あくまでサポートに徹する。面倒みよく手伝い過ぎてしまうと、逆にこどもの成長・経験・自立の機会を奪うこととなります）

2. こどもキャンプについて

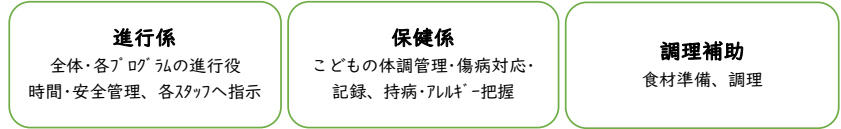
(1)組織図・各スタッフの役割

右図参照

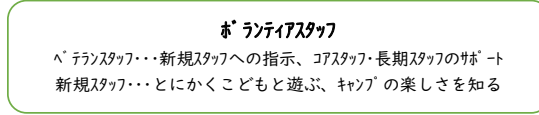
□コアスタッフ…キャンプ運営の中心となる団体職員（社員）



□長期スタッフ…複数コースに参加し、特定の役割を担うスタッフ



□ボランティアスタッフ…上記以外のスタッフ



(2)スタッフとしての心構え

①こどもよりも先に行動する

次の指示が出たら、こどもより早く動いて指示を出す側になってください。

②こどもをよく観察する

遊びに夢中になりがちですが、周囲に馴染めていない子やホームシック気味な子、プログラムを楽しめていない子、自分の意見や気持ちを言えずに我慢している子はいないかなどしっかり観察してあげてください。

③報告・連絡・相談

キャンプ中は携帯で指示を送るので、マナーモードにせず常に携帯し、こまめにチェックしてください。また、こどもの様子や健康状態など気付いたことはどんな些細なことでもLINEグループやコアスタッフに報告してください。

④身の丈にあった見守り

こどもへの対応力・経験は人それぞれ違うので、決して無理をせず、自分の力量に見合った見守りを心掛けてください。また、自分に出来ないことは遠慮なく他のスタッフを頼ってください。

⑤非常時の対応（台風・地震など）

非常時には運営側はこどもの対応および保護者への連絡、交通手段の確保、各スタッフへの指示など様々な対応に追われるため、自身の家族への連絡は各自おこなってください。また、こどもから保護者と話したいと要望があった場合も各自の判断で連絡をとることは絶対にせず、コアスタッフへ相談してください（保護者との連絡は運営側が一括して行います）。

⑥禁止事項（禁止事項を破った場合は今後の参加をお断りする場合があります）

- ・写真撮影やスタッフ間の連絡以外の携帯電話の使用は最小限に控えてください。また、「こどもにパスワードを変えられて携帯を初期化することになった」等のトラブルが発生したり「キャンプ中に携帯ゲームをさせないで欲しい」という苦情がきたことがあるので、携帯にはロックをかけ、こどもに貸すことのないようにしてください。
- ・こどもとの連絡先交換（聞かれた場合は断るか、弊団体の事務所住所を教える→団体経由で手紙の交換も可能です）
- ・写真の私用（保護者への提供のため写真撮影は許可していますが、SNSにアップする等の私的利用は厳禁です）
- ・キャンプ中の飲酒・喫煙（どうしても喫煙したい場合は事前にご相談ください）
- ・こどもにお金のお話をしない（給料を貰っているかと聞かれた時は全員ボランティアと答えてください）
- ・家族の話はこちらから積極的にしない（ひとり親家庭などいろいろなバックグラウンドを持つこどもがいるため）
- ・ジュース等を買って与えない（買うこと自体がいけないというより、口止めしても周りにバシて不満が出るため）

【写真記録・共有方法】

保護者への報告のためキャンプ中に活動の様子を写真でFacebook等へアップし、キャンプ終了後には写真データを提供しているので、意識してたくさん撮影してください。写真のアップロードは手の空いた時に随時LINEグループの日程ごとにアルバムへ追加してください。なお、SNOW等での写真加工は使用せず、不要な写真（全く同じ連射撮影や手ブレの酷い写真など）は必ず削除し整理した上でアップしてください。（その後の写真選別がすごく大変です！）

【名札の作成】

こどもの名札は事前に名札に印刷しておき、初日の昼食後に名札にキャンプネームや絵を描きます。

スタッフ自身もキャンプ当日（研修参加者は研修当日）までにキャンプネーム（こどもウケする面白い名前や親しみやすい名前がオススメです）を考えおき、キャンプ場到着後すぐに名札を作成してください。

3. こどもの見守りポイント



(1) 見守りの基本

- こどもへの対応・言動はすべて保護者へ伝わる可能性がある事を心にとめ、不適切な言葉（下品・乱暴な言葉など）を使わないようにしてください。（実際に保護者に何でも話す子が多く、良い事も悪い事も想像以上に伝わっています）
- 進行役が話す内容はスタッフもしっかり聞く（ゲームルールや料理手順など、こどもは聞いていない子も多いし、聞いていても理解できない子やすく忘れてしまうこともあるため、スタッフ自身が理解して、担当班の子に教える）
- 進行役の全体説明中に騒がしい子や話を聞いていない子は注意する（進行役だけで静かにさせるのは無理です）
- 重度な食物アレルギーを起こした場合や、危険な動物（ハチ・ヘビ等）の被害を受けた場合はすぐにコアスタッフや長期スタッフへ報告（近くにいない場合には救急車を呼ぶ）
※山の村は病院への緊急搬送に時間を要するため、一刻も争う場合はドクターヘリを呼びます
- 紛失・返却忘れ防止のため、こどもの荷物は極力預からない（特に小さい物）。やむを得ず移動時に重い物等を預かる場合も移動後にすぐ返却する。

(2) 生活の見守り

- ひとりぼっちの子やホームシックの子、ケンカ・イジメがないか等、こどもの様子をよく観察する。
- こども達が何か出来ない（分からない）ことがあった時には、すぐに答えを与えるのではなく、ヒントを与えたり、一緒に考えてあげたりすることで自分で考えられるように促してください。多少のミスであればあえて間違えさせるのも勉強です。何でもすぐに答えを与える（やってあげる）ことのないように心掛けてください。
- ケンカを発見した時はまず LINE グループで共有してすぐに仲介に入り、曖昧に終わらせずに話し合って解決してください。また、安易に叱らないよう注意し、対応方法が分からない場合はすぐにコアスタッフへ相談してください（後日、保護者から自分の子は悪くなかったのに勘違いされて怒られたという苦情が何度か発生したこともあります）。また、ケンカ発生時は「原因・結果」を必ず報告してください。
- こどもの体調管理には常に注意を払い、夏季は熱中症対策（水分摂取、塩分補給、水浴び等で体温を下げる、こまめな休憩など）を十分に行う。
- 最終日の荷物整理では、工作了り物（基本的に工作室に置いておき、最後にまとめて渡す）や外に干している物、施設内の落とし物、落とし物ボックス、他人の荷物が紛れていないかを確認する。

【ホームシックについて】

- 発生しやすい状況・・・8割以上が夕食～就寝前の夜間帯、男女関係なく 1～4 年生に多い。
- 発見方法・・・遊び時間や自由時間に誰もいない場所を 1 人でウロウロしたり、夕食時に寂しそうにしていたり、うつむいている等。特に友達があまりできていない子や、プログラムの合間の空いた時間に注意する。
- 経過・・・多くは 1～2 時間で落ち着き、翌朝には元気になっていることが多い。
- 対処法・・・周囲にも伝染するため人のいないところへ連れていき、LINE グループでスタッフ全体へ周知する。その後は本人が落ち着くまでは常に誰かが寄り添い積極的に会話を続けて、気持ちを切り替えてあげてください。（家族の話は絶対にせず、キャンプで楽しかったことや明日やりたいこと・趣味・ゲーム等の本人が好きなお話をする、散歩に連れ出し気分転換をする等）。寝ると忘れることが多いため、夜間発生時には就寝時間前に寝かせてもよいです。自分では対応が難しいと判断した場合には別のスタッフが対応することでうまくいくこともあります。なお、親への電話をお願いされても出来るだけ連絡はしないので、拒否はせずにさりげなく話を反らして忘れさせてください（それでも無理な場合は相談してください）。

【1 日のふりかえりについて】

こども達の活動状況の確認と健康状況のチェックのため、生活班ごとに毎晩行います。

① 傷病チェック

基本的に保健係がケガ・病気の対応をしますが、保健係以外のスタッフが対応して傷病記録を記載していない場合や、

本人が我慢していて誰にも伝えていない場合など、保健係が把握していないケースがあるため、夜間のふりかえりにて改めて確認する（大きいケガや病気の場合は経過観察の意味も込めて確認する）

いつ・どこで・どのようにケガしたか、どれくらい痛いかなど出来るだけ詳しく聴取する（流血を伴わない軽傷は省略可）。また、症状や程度を的確に伝えられなかったり、ケガを隠す（または過少・過大申告する）事もあるため、直接患部を見る、触診により痛みがないか確認するなど問診だけに頼らないようにする。

②その日の感想

楽しかったこと・頑張ったこと・困ったこと・明日やりたいことを一人ずつ詳しく聞いていく。一問一答ではなく、対話形式で話すことで、反応や話し方から本人が楽しめているか等も感じ取るように心掛ける。

【こどもへのメッセージ記入】

最終日の前日夜に担当班のこどもへメッセージを書いてもらいます。学年に合わせて難しい漢字や表現は避け、3～5行程度で書いてください。こどもに向けたメッセージですが、保護者も見ることを意識して、差し障りの無い漠然とした内容ではなく、一緒に遊んだ時の事や夜のふりかえりでの発言を思い出し、本人が頑張った事や夢中になっていた事などを具体的に書くように心掛けてください。また、兄弟の場合は保護者も同じなので別のスタッフが書くようにしてください。初めての人は以下の例文を参考に自由に書いてあげてください。

「はじめてのキャンプは楽しめたかな？ ●●くんは料理の火おこしで最初はうまうましかったけど何度もチャレンジしていて、火がついた時にはとてもうれしそうだったね！ 料理を作るだけじゃなくて、食べた後のかたづけもすすんでやっていて感心したよ。また、次のキャンプでも会えることを楽しみにしてるよ ■■より」



(3) 遊びの見守り

【全プログラム共通】

- ・選択プログラムにおいて別プログラムへの途中移動は出来るだけ行わない（みんなが移動すると管理が大変なため）ただし、どうしても移動を希望する場合にはプログラムリーダーに相談し、外遊びなどの途中参加が容易なところへ移動（お菓子作り・川遊びなど準備や事前説明が必要なプログラムへの移動は避ける）するなど柔軟に対応する。
- ・迷子・事故等の防止のため、こどもが施設間（コテージ→レク棟、レク棟→ゲストハウスなど）を移動する時や離れたトイレに行く時は必ずスタッフが同伴し、LINE グループに報告してください（迷子と勘違いして騒ぎになるため）

【工作】

- ・多くのケガは軍手の着用により防ぐ（軽減する）ことができるため、必ず身に付けさせ、その後も常に軍手の着用有無を確認する（工具を持つ手は滑らないよう素手で持ち、もう一方の手に軍手を着用する）
- ・工具ごとにまとまった場所で使用する（工具や釘の散乱を防いだり、安全管理がしやすいため）
- ・終了後は工具や工作材料・釘が落ちているため、こども達に片付けをしてもらい、最後にスタッフが最終確認をする。
- ・ナタ・電動工具（糸のこ・ドリル等）は非常に危険なので、必ず使用方法の分かるスタッフと1対1で使用する。
- ・「これ切って」と言われてもすぐにやってあげることはせず、やり方やコツを教えてまずは自分で頑張るように促す。それでも難しい場合には一部だけ手伝う（スタッフはあくまでサポートに徹し、基本はこども自身で作る）。

【お菓子作り】

後述の「(4)食事の見守り」の内容に加えて、以下のことを心掛ける。

- ・食物アレルギーの子がいないかを確認する（特にナッツ類や牛乳・卵など）。
- ・レシピを渡して全体で作り方の確認をした後はこども主導で作らせて、困った時にはサポートしてあげる（炊事と違い失敗しても問題ないのでスタッフ主導で作らないようにする）。
- ・食べることが目的ではなく、作ること自体が大切なので、食事が食べられなくならないように作る量は最小限に抑える（こども1人につき0.5～1人前以内の分量にする）
- ・作ったお菓子は友達にあげることはせず作った人だけで食べる（作り過ぎや食物アレルギーの心配があるため）。



【川遊び（夏季のみ）】

- 川に入る前には、遊泳範囲の説明・危険な場所の説明をした上で、準備運動をする
- 救急セットを忘れずに持参する（川周辺はハチ・アブが多いのでボイゾンリムーバーを忘れない）
- 携帯電話は長期スタッフ全員が持参する（緊急時に必ず電話が繋がるようにするため）
- **監視スタッフを必ず1名置く**（こどもとは遊ばずに監視に専念し、ライフジャケットを着ていない子はいないか、危ないことをしていないか、遊泳範囲外へ出ていないか、ひとりぼっちの子はいないかをチェックする）
- **川で泳ぐ際には必ずライフジャケットを身に付けさせ、スタッフが装備を確認する（ベルトの緩み、留めるべきところはすべて留めているか等）**
- 川での溺れは泳ぎが得意な人でも、ひざ下くらいの浅い場所でも起こりえます。また、こどもは音も立てずに静かに溺れることがあることを覚えておきましょう。
- 川遊び中は脱水症状になっても気付きにくいので、水分補給や塩分補給を定期的に行う



(4) 食事の見守り（炊事および食事の時間）

- 長期スタッフ（特に食事係・保健係）はこども全員、その他のスタッフは担当班の食物アレルギーを把握しておく（必要に応じて本人に問診）。少しでもアレルギー症状（口や喉の違和感・かゆみ・赤くなる・くしゃみ・鼻詰まり・充血など多岐にわたる）が出た場合にはすぐに保健係へ報告する
- 調理前には包丁の使い方や野菜の切り方、火のつけ方などを最初に教えて、こども達自身で行う。
- **調理時は手洗いとアルコール消毒を必ず行い、細菌の多い肉や魚介類・生で食べるサラダ等を触る時にはビニール手袋を着用する。また、まな板は肉・魚用と野菜用を分けて使い、生ものの調理後はすぐに手を洗う。**
- BBQ で生肉をパックから取る時にはトングを使わずビニール手袋を使い、焼けた肉を扱う時のみトングを使用する（生肉をトングで触った時はトングを火にかけて熱殺菌する）
- こどもは衛生観念が低く、料理中に地面などを触るため、汚いものを触った場合は再度手を洗うように促す。
- 包丁による切り傷やヤケドが多いため、特に低学年の子には注意を払い、包丁等の刃物は必ずスタッフが洗う。
- 出血した場合は食材に血がついていないか確認し、周囲に血がつかないように必ず絆創膏を貼って、その後は食材に触れる作業を避ける。
- 飯ごう・羽釜炊飯は火加減が難しく、失敗すると致命的なので、こどもに手伝ってもらいつつもスタッフが炊飯時間・火の強さ等をしっかりと把握・管理する。
- 飯ごう・羽釜炊飯のコツは、炊飯前に米を水に浸す（夏は30分、冬は90分）。弱火から徐々に火を強くして10～15分で沸騰させ、水蒸気が出て水分が減ってきたら弱火にし、着火から25～30分でご飯の香りがしてきたら完成（この時点で水分が多い場合はさらに5～10分弱火で炊く。焦って強火にすると焦げるので注意）炊けた後は、フタを閉めて15分蒸らして（飯ごうの場合は上下ひっくり返す）、全体の水分を均一化させるため米を混ぜたら完成！一番多い失敗は強火の時に火を強くし過ぎて水分が一気に無くなり焦げることです。
- 嫌いなものは減らしてもいいけれど、無理強いしない程度に少しでもチャレンジできるように促してあげる。
- **好き嫌いや体調不良等により、食事を十分に摂れなかった場合には食べられる食材を用意したり、次の食事の様子を観察する等の対応をとるためすぐに報告してください。**
- **こどもが火を消すために石製カマド・金属製BBQコンロ等に水をかけることがありますが、急激な温度差で割れたり変形したりするため、絶対に水をかけさせない。火を消す時は可燃物を除去して自然消火させる。**
- **包丁等は危険なためスタッフが洗い、洗った後は乾燥のためにカゴ等に入れずすぐにしまう（こどもがひっくり返したら大事故になるため）**
- **食事に異物混入（髪の毛・包装容器等）があった場合はコアスタッフに報告してください（発生件数を把握するため）**
- **食事の配膳は進んでやってください（こどもやボランティア体験の子が手伝ってくれる場合もありますが、特にスープ等は危ないため、こどもにはやらせず出来るだけ男性スタッフが運んでください）**

(5) 夜間の見守り

- 就寝環境の確認…夜のスタッフミーティング終了後の自分が寝る前には周囲のこどもが朝の冷え込みに耐えられるよう寝袋・毛布をしっかりと被っているか（就寝時に暑くてよけている事があるため）を確認し、エアコンの温度確認（冷房 27℃以上、暖房 27℃以下）や加湿器への水補充等も行う。
- 夜尿症対策…おむつ（OMT）を持参している子は本人が大丈夫と言っている場合でも必ず着用させる。着用時には周囲に気付かれることのないよう配慮し、トイレ等に誘導して着替えさせる。朝の起床時に臭い等からおねしょが疑われる場合は、必ず誰かを探してコアスタッフへ報告する。（本人の着替え・寝具の処理が必要なこと、状況により保護者への報告（クリーニング代の請求）が必要なため）。汚れた寝具は洗濯をするためコアスタッフへすぐに渡す。
- 寝られない子への対応…ホームシックや暗いところが怖いなど、テントやこどもだけの空間で寝られない子はスタッフが添い寝する、スタッフ部屋で寝させる、テント泊の時は屋内へ移動させるなど柔軟に対応する。



(6) 傷病対応・服薬管理

- ケガ・病気の発見時には、自身で処置をせずに必ず保健係へ報告して引き継ぐ（誤った処置をしたり、傷病記録の記載が必要なため）なお、保健係がいない場合はコアスタッフへ指示を仰ぐ。
- 服薬確認は、服薬のタイミングで保健係から各班スタッフへ「名前・薬の種類・数」を伝えて、各班スタッフは目の前で服薬を確認して（服薬を嫌って嘘をつく子もいるため必ず飲むところまで確認）保健係へ報告する。ただし、人数が少ない場合には保健係がすべて行う。

保健係は以下に注意して処置を行う

【病気】

- まずは体温を測り、熱がある場合は二次感染を防ぐため人のいない部屋へ移動させる。水やアクエリアス等の水分を与えて安静にさせ、傷病記録を忘れずに記入する。
- こどもへの飲み薬の投薬は、本人が持参したものの以外は絶対に飲ませない（薬の副作用や薬アレルギー（解熱鎮痛剤に多く、重篤な場合にはショック症状を起こす）など予期せぬ事故が起きた場合に責任を取れないため）
- 備品の飲み薬はスタッフが使用するためのものです。
- 38℃以上の高熱が出た時、ハチ刺されやマダニ・ヘビに噛まれた時、その他著しく体調が悪そうな時は、保護者と相談した上で病院へ行くため、すぐにコアスタッフへ報告する。

【ケガ】

- 基本は患部をよく水で洗い流し、必要に応じて消毒薬や絆創膏を使用する。アルコール消毒は細菌だけでなく、良い菌や健康な細胞も攻撃してしまい治りが遅くなり、絆創膏も傷を治してくれる体液を吸収してしまい治りを遅くなるため、軽度であれば水で洗うのみで済ませる。（本人が希望する場合は使用してもよい）

ただし、下記のようなケースでは使用することが望ましい。

- 消毒の使用…土や異物が傷口に入り込んでいるなど患部の汚れが酷い場合や細菌の侵入が疑われる場合
- 絆創膏の使用…調理時のケガ（食材に血が付着するのを防ぐため）、物が当たって痛い場合、手足など汚れやすい部位が汚れるのを防止する等を目的とする場合

【預り薬の服用】

- 保護者から薬の保管を依頼されている薬は「名前・薬の内容」が記載されているかを確認し、レターケースに保管する。
- 服用手順…①こどもを集める ②本人に名前を言ってもらおう（こちらから呼ぶと適当に返事する可能性があるため）
③薬に記載の名前を確認して薬を渡す ④薬に間違いがないか本人と一緒に最終確認をする ⑤服用する
⑥レターケースへすぐにしまう

(7) 衛生管理・安全対策

【食中毒予防】

食中毒は防げる事故であり、信用問題に発展するため必ず下記の内容を守ること。また、こどもは大人よりも食中毒になりやすいため普段以上に衛生面に気を付けてください。

- 手を拭くタオルは小まめに交換する

• (特に BBQ では) 肉や魚介類は少し焼き過ぎなくらい確実に火を通す

• 肉や魚介類の常温での自然解凍は細菌の繁殖が起こるため、調理直前までは冷蔵庫にて保管し、①前日から冷凍庫→冷蔵庫に移し解凍 ②流水解凍 ③電子レンジにて解凍 のいずれかにて行う

• 卵の表面には食中毒の原因となるサルモネラ菌が付着しているため、割った後の殻は放置せずすぐにゴミ袋へ捨て、石鹸で手を洗う。

• 余ったカレーなどを冷蔵庫で保管する場合には、冷却中にも細菌繁殖するため、出来るだけ小分けにして短時間で冷えるようにし、食べる時には沸騰するまで温めなおす。また、前日の残り物はこどもには食べさせない。

• 水筒にジュースやスポーツドリンク等の塩分が含まれた物を入れると、金属成分が溶け出し、頭痛・吐き気・めまい等の金属中毒が発生する可能性があるため絶対に避ける

【ノロウイルス対策】

• 特徴・・・非常に感染力が強く、ごく僅かな菌で感染し、通常の石鹸等では殺菌できないため注意が必要

• 発生時期・感染経路・・・ノロウイルスによる感染性胃腸炎や食中毒は年間通して発生するが、特に冬季に多く、手指や食品（魚介類に多い）を通して経口感染する。

• 症状・・・嘔吐・下痢・腹痛・(発熱)など。健康な成人は軽症で回復するがこどもは重症化しやすいため注意する。また、繰り返し嘔吐する事も多いので、嘔吐物の飛散や脱水症状に注意をする。

• 予防策・・・食事前の手洗いの徹底。体調の悪い人は調理をさせないようにする。

• 消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム)・・・通常の洗剤は効果がないため専用消毒薬(またはキッチン泡ハイター)を用意する。

• 嘔吐物の処理方法・・・保健係資料参照

4. 集合・解散について

【集合・解散時の注意事項】

- 当日の朝は、団体ロゴの入ったタペストリー（旗）を目印に「集合時間」までに各集合場所へ集まってください
- 最初の集合場所以外ではスタッフの集合状況をLINEグループへ報告（全員集まった等）してください
- 集合場所周辺では、集合場所が分からずに大きい荷物を持ってウロウロしている親子がたくさんいるので、こちらから「ふじこども自然学校のキャンプ参加者ですか」などと声を掛けてあげてください。集合場所が保護者との唯一の接点である事を忘れず、「この人に子どもを預けても大丈夫かな・・・」と思われぬよう保護者・子ども・他のスタッフへ元気よく挨拶しましょう！
- 解散時には解散場所にて帰りの挨拶をした上で子ども達へキャンプだよりを配布します。保護者が子どもを見つけてそのまま帰ろうとしている場合には引き留めてコアスタッフのところへ誘導してください

【集合時の受付方法】

当日は下記の役割をお願いするので、それぞれの流れを把握しておいてください（参加券係は職員が行います）

なお、保護者が会社等の都合により受付開始時間前に受付を希望する場合は断らずに受け付けます。

- 参加券係（1人）・・・参加券を受け取り、記入内容に不備が無いが、病気やアレルギーで重度なものがあれば、症状や程度、処置方法を確認。その他、自由記述欄など気になる点があれば確認
- 名札係（2～3人）・・・子どもに名札をかけて上げ、大きな荷物を預かって荷物札をつけ、バスの運転手に渡す
- バス案内係（1～2名）・・・バスで待機し、空いている席に子どもを誘導する（酔いやすい子は前席ではなく真ん中へ）
既にバスに乗っている子どもがいる場合はトイレに連れて行く。



5. その他

- 当日子どもの情報を記載した名簿を配布しますが、個人情報がかかれていたため、キャンプ終了後に回収します。責任を持って保管し、置きっ放しにせずポケットやファイルに保管して子どもへ見られることのないようにしてください。
- 未成年のスタッフは、ボランティアの概要をすべて説明した上で、必ず保護者の了承を得てください（参加した時点で了承を得ているものと判断します）。また、台風・地震などの非常時には団体側へ連絡をせず、自身に連絡するように伝えてください。運営側は子どもへの対応に追われるため、スタッフの保護者の対応はできません。
- キャンプでの隠語・・・子どもへの配慮のため下記のような隠語を使用します。
ホームシック(HS)、おむつ(OMT)、夜尿症(YN)、昼間の尿漏れ(昼 YN)、生理(SR)、アレルギー(AR)



